

さわしい、新しい段階の総会に、是非たくさんの方たちに参加してほしいと願う。

重松清著「希望が丘の人々」を読んだ。「希望」とは何かに迫る大作だ。同時に、「人間の生きる糧」を考えさせられた。そして思うのは、「希望」とは「一人ぼっちじゃない」ということではないか。重松清のさまざまな小説を思い起こしても、そのこと

がメッセージとして心に響いてくる。「一人ぼっちじゃない」からこそ生まれるもの。「協同」を深めること、「協同労働」を呼びかけることは、その事から始めなければ、と思う。「希望ある社会」とはそうした社会のはずだ。だからこそ、労働から希望を生み出すこの運動が、必要性を増している。

目録 研究所だより

関 智子

3月も半ばを過ぎ、春の足音がもうそこまで聞こえてくるようになりました。春と言えば出会いの季節です。ワーカーズコープでもこの4月から多くの現場が立ち上がり、たくさん仲間が入ってきます。

先日、千葉県東金市で行われた子育て支援事業所の合宿に参加しました。冒頭、春から立ち上がる現場の紹介がありましたが、多くの現場が立ち上がり、子育て支援現場の勢いには凄まじいものがあります。3～4年前までは東京の数カ所だけだったのが、今は東京から全国各地に子育て支援現場は広がっています。

この4月から立ち上がる現場の一つとして、長野県上田市の児童クラブがあります。市内の全児童クラブ及び併設児童館の21カ所が立ち上がり、立ち上がる現場の数としてはもっとも多い数となります。

上田市は私の出身地のお隣の自治体でもあり、立ち上がる現場数の多さにびっくりしているところです。協同労働法制化の地方議会の意見書採択は長野県が最も多い訳で

すが、この上田市は未採択の自治体です。この勢いで3月議会は採択をめざしたいところです。

協同総研に赴任になってやっと半年経過した時点で、いろいろな仕事にも慣れてきたし、これからという時期ではありましたが、今回上田市児童クラブを立ち上げるにあたり、センター事業団に復帰し、上田事業所に赴任することとなりました。上田市の全児童クラブを一括で管理を任されたので、上田市の子育て支援を担う意味でも大変意義のあることだと思っています。

20も現場があるので、人材集めが大変です。現在は市直営で運営されていてほとんどの職員の方が応募をしてくださったこともあって、概ね決まりつつありますが、まだまだ足りない状況です。それに面接を行うのも一苦勞です。1週間で50人近くの方と面接をしました。面接には東京事業本部から2名応援に来てくださり、大変心強いものがありました。やはり、こういうときはワーカーズコープの良さや、全国展開の良さを感じるもので

す。また、お二人とも普段あまり話す機会がありませんでしたので、この期間にいろいろな話をすることができ、充実した1週間であったと共に、人は誰かに支えられているという気持ちを強く感じることができました。

さて、上田市の児童クラブは2月2日の臨時議会の承認で、私たちの指定管理が決定しました。4月の立ち上げまで2カ月を切ったの決定ということもあって、時間がいくらあっても足りない状況です。おまけに20カ所もあるので、保護者向けの説明会もほぼ全ての児童クラブで行うこともあり、てんてこ舞いの状況です。上田市は、旧上田市街と旧丸子町、旧真田町、旧武石村が合併して新上田市となりましたが、放課後児童健全育成事業に関しては、旧市町村のまま現在まで行われています。そのため、同じ上田市でも児童クラブの名称も違えば、保育料金も違う、おやつの出し方もちがう、という状況を4月から統一させる方向になっています。それに加えてワーカーズコープの運営となるものですから保護者の方々が困惑する状態にあるというのも無理はありません。

保護者説明会の際、ある保護者から「なぜ指定管理者を導入することになったのか、市からまったく説明がなく、困惑している」という発言がありました。私たちからすれば、そういった説明はすでにされている、と思っていましたからその保護者の方の発言に驚いてしまいました(他の自治体でもこういったケースはあるようです)。

指定管理者制度と一言でいっても、自治体によって捉え方がかなり異なってきます。

私たちワーカーズコープは、公共サービスの「市民化・社会化」することを目的に、利用者・市民を主体者にし、「3つの協同」と、「よい仕事」を目指し、地域や保護者から信頼を得られるような運営を行っていきたいと思っています。

子育て支援は、明日すぐに結果が見えるというものではなく、何年か経ってから「そういえば、あの時児童クラブの先生があんなこと言っていたな」と、気がつくこともあるので、大変意義深い仕事であると感じています。近年の働く女性の増加に伴い、少子社会であるのにもかかわらず、保育園や児童クラブは待機児童がたくさんいるという矛盾した状況でもあります。子どもたちの放課後の生活の場を保障するとともに、その家庭の子育ての支援を行っていければと考えています。

今回は、急な異動ということで私自身も驚いてしまいました。また、事業所の立ち上げを経験するのはこれが初めてのことで、困惑することばかりです。しかし、協同総研での経験や、今までの経験を基に協同労働の現場づくりを仲間とともに行っていきたいと思います。半年という短い間ではありましたが、協同総研では大変貴重な経験をさせていただきました。各地域でのさまざまな活動を知ることができたり、夕張や九州などへの出張など、また新潟の全国協同集会では多くの人と知り合うことができました。上田でも多くの人たちとのネットワークをつくりながら、協同労働を広げたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。